

学生生活について

中央聖書学校舎監

上原和雄

現在、中央聖書学校の学生数は、ひところより少く、二十六名です。男子十名、女子十六名が、恵まれた環境の中で学んでいます。短大を含めて大学卒者が七割を占め、そのためか学生の令化が目立ち、平均年齢が二十七才となっています。世間一般の教育レベルが上っている現状では、ある程度止むを得ないことでしょうか。ただ今後の問題点として、殆どの学生が一律のカリキュラムの適用を受けていることです。今後次第に専門化、特殊化する

(上原師と御家族)



各種の伝道分野に適應する人材となるためには、受身の授業だけでなく、自主的な自己訓練による自己発見と自己啓発が必要です。これをどのような形で実現してゆくかが、学生達一人一人の戦いです。

学生達は実によく勉強します。毎週のようにレポートが出るからです。一般の大学と違って、目的と使命感がはっきりしているからでしょう。

寮生活は、新入生には戸惑いと試練のようですが、素晴らしい神の訓練の場であることは、昔も今も変わりありません。生活環境や生活意識が各人各様の時代に、かたくなな程に全寮制を維持し、また、一つの教団が単独で神学校を運営することは、今日では奇跡に近いことだと言ってもよく、多くの困難はあつても非常に優位であります。

今日、この神学校も経営危機に見舞われており、或る所は閉鎖し、或る所は合併しておるのです。これは、戦後の各教団、神学校が外国からの援助に頼っていたのが、ドル・ショック以来自立自給に追い込まれたからです。

ですから、今は本当に諸教会の熱きお祈りと支援が必要になって来ました。

これに関連しているのが、学生の経済的負担の問題です。確かに、毎月の寮費(殆んど食費のみ)、と授業料、

更に生活費と小遣いを合せると、四年間では百万円を超える額になるというのは事実です。これは昔の神学生には考えられないことでした。けれども、これは月々の学校経営費全体と比較すると、学生側の負担はまだまだ微々たるもので、一般大学や私大とは到底比較にならない恩恵です。しかし、更に自由な献金や匿名の献金等による経済的支援が必要であると感じます。

神学生達の生活が、靈的にも物質的にも満たされるようにお祈り下さい。

◎伊藤顕栄師 名誉神学博士号を受く
本校教授の伊藤顕栄師は、「効果的指導性」「教育と出版の働き」「大学と教団への奉仕」等についての功績が高く評価されて、伊藤師の母校であるノース・ウェスト・バイブル・カレッジ(米国シアトル市)より、名誉神学博士号が、去る九月二十四日、同校に於て授与されました。これは本校にとって非常に名誉なことと喜ばしいことです。

▼奨学金の献金

●この度、アン・クレメント奨学金基金として、金、四二万円が献げられました。

●リンボール奨学金基金として、金、五二、三〇〇円が也が献げられました。

中央聖書学校 学生募集!

宣教のビジョンに燃える若者よ!

駒込山に來りて学び祈ろう!

出願応募切日 一月十五日

入学資格 (1)受洗後二年以上を経た忠実な教会員であること。

(2)高等学校卒業以上の者。

出願手続 所定の入学願書に必要事項を記入し、次のものを添えて本校事務局に切期日まで提出すること。

(1)最終学年の卒業または修業証明書、成績証明書。

(2)医師の健康診断書。

(3)戸籍抄本。

(4)入学検定料 五、〇〇〇円。

試験日 昭和五十五年二月一日。

試験場 中央聖書学校。

◎入学案内書は、教会の牧師に申し出て下さい。多数の献身者が応募されることを期待して折っています。

発行・一九七九年十二月十五日

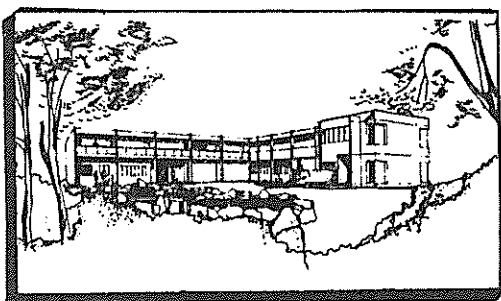
事務局 〒170-603(九一八)四九五

東京都豊島区駒込三十五-二〇

中央聖書学校

編集者 白石 楨 男

中央聖書学校 〈C・B・C〉だより



中央聖書学校の使命 献身の確認

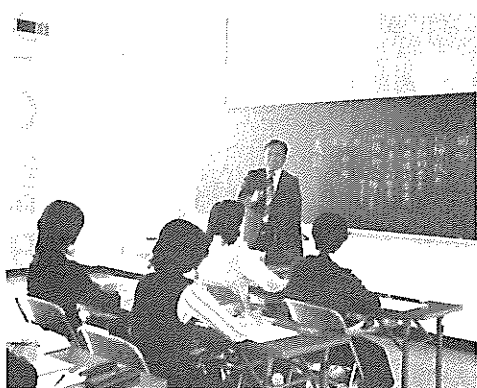
佐布正義

「彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこほ人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。』」

(ヨハネ二一・一五)

これは復活後、三度目に弟子たちにご自身を現わされた時、ペテロを名指しで問われた主イエスのお言葉である。

ペテロにとっては、あるいはこういう問いかけがあるかも知れないことは、予期されていた。なぜなら、死にも獄



にも従って参りますと誓った直後に、三度も繰り返して、主イエスを見知らぬ人だと偽ってしまったからである。そして、その後主の十字架の処刑の様子を目撃して、どんなにか自分の不甲斐なさを悔んだことであろう。このペテロに、特別な配慮を主は示しておられる。

ここで、「この人たちが愛する以上に」と訳されている主のお言葉に注目してみよう。この原語の「これらに勝って」という「これら」という指示代名詞、属格、複数形の語は、男性、中性共通の指示代名詞であって、必ずしも「人々」を指すとは決らない。問題は、このお言葉を語っておられる時、主イエスが何を指しておられたかなのである。日本語訳では前後の様子から判断して「この人々」と訳して他の六人の弟子と比較されていることになっている。しかし、もし主の御手が、網から引き上げられたばかりの獲物や舟の方を指していたならば、「これらのもの」ということになる。或いは人物を含んだすべてを指して、これら一切のものに勝って「わたしを愛するか」ということも考えられる。

その場合には、主の十字架刑以後のペテロが目標を見失っている様子を知っておられる主イエスが、ペテロに、新しい献身を迫っておられることになる。ペテロは、ガリラヤ湖に戻って漁をしたのである。そして、多くの獲物に驚いている。しかし、それらへの執着を捨てて主に従って来たペテロであるから、ここでもう一度、献身を明確にする必要があつたのである。

また主イエスが、ペテロに対して、他の弟子たちに勝る愛を求められたとしても、決して不自然ではない。三度も主を否定した後のことであるから。そして、「他の人はどうであれ、あなたはわたしに従って来なさい」とペテロに再び「従うこと」を求められるのである。

「多くの獲物」か、又は「他の弟子たち」のいずれの場合にせよ、主イエスはペテロに対して、新たに献身の確認をしておられるのである。

わたしたちも、このお言葉を自分身に充ち、世のもののすべてに勝って主を愛し、主に従って行かねばならないと思うものである。

新入生の献身の証明

寺田文雄 (大阪中央福音教会出身)



「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であつて、それは神のよしとされるところだからである。(ピリビ2・13)」

四年前、二十七才の時に、祖母の死を通してこの素晴らしい救いに導かれ、私は主の真実の愛を知りました。

昨年、毎土曜日の祈禱会の時、強く主のせまりを感じました。そして、やがて、主に生涯を委ね、福音宣教に携わりたいと思うようになり、牧師先生の助言もあつて、献身しました。

榊山啓子 (京都七条教会出身)



私は十七才の時、主イエス・キリストを信じて救われました。その時から主のために働きたいと思い、初め看護婦として働きました。しかし、主は直接伝道者になるように私の心に語られ、私もそのため祈りました。はつきりとした決心がつかないまま3年が過ぎましたが、昨

年の9月国際助産婦学会がイスラエルで開催され、私も出席しましたが、その時、キリストに全てを献げて従う決心ができました。主は必要の一切を満たし導いて下さる事を信じます。

池本万理子 (大島キリスト教会出身)



昭和五十二年六月、商社に勤務している時に救われ信仰に入りました。教会の集会に通っているうちに、もつと直接伝道の働きをしたいという願いを持にはじめました。しかし、果してどのような形で献身するかが明らかに示されないまま迷いました。そこで熱心に主の導きを祈りました。「心を尽し、思いを尽し、力を尽し、知性を尽してあなたの神を愛しなさい」との御言葉により決心がつき、献身出来た事を感謝します。

長嶺 康 (大阪中央福音教会出身)



三年前の駒込の本部で開かれた全国聖会の時、献身へのアッピールに応じて立ち上りま

したが、自分の心の中には確信が欠けていました。以来三年間、働きながら自分の生涯の道を祈り求めて来ましたが、主は「あなたの行くべき道を示す」(詩篇32・8)とのみ言葉を与えて下さいました。そのような時、特別な集会が教会で開かれ、主からの明確な献身への導きを与えられました。しかし、献身する前に、家族との関係、経済問題、自分の将来のこと等々と問題がありましたが、主は一つ一つ解決して下さい、此の学舎に送って下さいました。

長南律子 (福島中央福音教会出身)



「神は、宣教の愚かさによって信じる者を救おうとされたのである」(コリ第一、1・21)

全く神様のことも、主イエス・キリストのことも知らなかった私は、一人の熱心なクリスチャンにより信仰に入ることが出来ました。七年前の東北聖会の時、主の御霊が強く私の上に臨みました。その時は自分が献身するとは考えませんでした。誰か他の人が主のために献身して伝道者になるように祈りました。然し数年前、大阪で開かれた断食聖会に出席した時、主は御言葉をもって下さり勝利出来ました。

常盤有美子 (八王子教会出身)



「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」(ヨハネ4・35)

私は小学校四年生の時から教会に行っていました。何か神様のために働きたいと思うようになりました。

やがて学生生活を終えて社会人となり、自分は教会での奉仕に当ることが適していると思っていました。或る時、一人の婦人宣教師の記事を読み、神のみ言葉を人々に宣べ伝えることは本当に素晴らしい仕事だと感激しました。そして私もあの宣教師のように伝道したいの思いが強まり献身した次第です。

本沢勝子 (大島キリスト教会・聴講生)



昨年八月に、韓国ソウルで開かれた世界宣教大会に出席して、聖霊の特別な恵みをいただき、感激しました。帰国後間もなくして、東京福音クルセードが、日比谷公園で行われ趙庸基博士のメッセージを通して献身への導きを感じました。その時以来、教会でお祈りする度毎に、召命の確信が明確になって来ましたが、小学四年の子供を持つ主婦ですが、聴講生として学ばせて頂いています。

授業参観

教室での学習を紹介します

れ用いられています。

本校は、昨年より四年制の聖書大学(バイブル・カレッジ)としての形態をととのえて、その学的内容と水準(勉強を終えた学生達の顔は明るい)



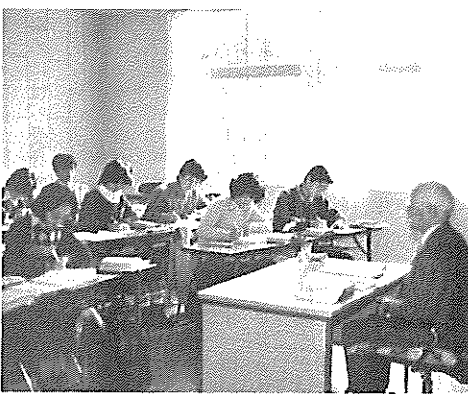
中央聖書学校

は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教国立の唯一の神学校であるばかりではなく、ペンテコステ信仰に立つ純福音的な超教派的な伝道者養成所としても、大いに祝さ

を高め、ととのえて来ましたが、しかしその精神はあくまで、熱烈な宣教意欲を持った伝道者の養成にあります。そのことから、本校の学生は原則として全寮制であり、一日の生活は規律正しい日課表の中に定められています。早朝の早天祈禱は自由参加ですが、誰が申し合わせをするわけでもないのに、まだうす暗いうちから祈禱室に来て祈っています。

八時二〇分からのチャペルの時間から学校が始まります。日本の魂の為に、或いは諸教会の働きの為に毎日学生たちは熱心に祈っています。

九時より十二時まで午前中三時間、午後一時より二時間、計五時間の授業(弓山先生のロマ書講義)



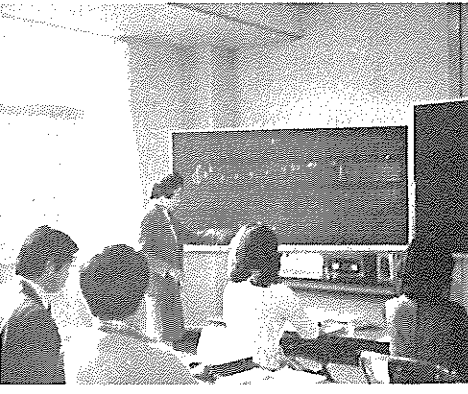
がその後に毎日続きます。

一般の学校と違って、授業の始めと終りには、必ず主に祈り、賛美し、感謝します。学習内容はあくまで神学研究機関としてのアカデミックな面を保ちながらも、実際伝道場でそれらが如何に活用され、福音宣教の実を上げ得るか等が積極的に取上げられ、時には終りのベルも聞えない程です。

授業科目を見てもみると、組織神学、実践神学、聖書神学、哲学、聖書釈義、歴史学(教会史、西洋史、アッセンブリー史)、宣教学、語学(ギリシヤ語、英語)、会議法、文学、音楽(一九七九年度後期時間割表による)――となっています。学生たちは、授業に追わ



(大森先生の音楽理論の時間)



(白石先生の哲学の授業)

